

2019年度

情報処理科 講義計画集

— 第2学年 —

氏名

.....
船橋情報ビジネス専門学校

〒273-0005 船橋市本町7-12-16

電話:047-425-1051
.....

2019年度 年間計画表 (情報処理科)

検定

直前講座・特別講座

4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
1	卒業式・ガイダンス 卒業対象生健診	1	天皇の即位の日	1	学校見学会	1	月12回	1	木	1	金8回 ひろえば船橋	1	火	1	金	1	日	1	水	1	土	1	日
2	火	2	国民の休日	2	2	火12回	2	金	2	2	2	水	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
3	水	3	憲法記念日	3	3	水11回	3	土	3	3	3	木	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
4	木	4	みどりの日	4	4	木12回 体育祭	4	日	4	4	4	金	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
5	金	5	こどもの日	5	5	金12回 チャーターバス(21)	5	月	5	5	5	土	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
6	土	6	振替休日	6	6	土	6	火	6	6	6	日	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
7	日	7	火4回	7	7	日	7	水	7	7	7	月	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
8	月	8	月曜練習4回	8	8	月	8	木	8	8	8	火	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
9	火	9	木4回	9	9	火	9	金	9	9	9	水	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
10	水	10	金4回	10	10	水	10	土	10	10	10	木	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
11	木	11	土	11	11	木	11	日	11	11	11	金	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
12	金	12	日	12	12	金	12	月	12	12	12	土	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
13	土	13	月	13	13	土	13	火	13	13	13	日	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
14	日	14	火5回	14	14	日	14	水	14	14	14	月	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
15	月	15	水4回	15	15	月	15	木	15	15	15	火	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
16	火	16	木5回	16	16	火	16	金	16	16	16	水	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
17	水	17	金5回	17	17	水	17	土	17	17	17	日	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
18	木	18	土	18	18	木	18	日	18	18	18	月	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
19	金	19	日	19	19	金	19	月	19	19	19	火	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19
20	土	20	月6回	20	20	土	20	火	20	20	20	水	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
21	日	21	火6回	21	21	日	21	水	21	21	21	木	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21
22	月	22	水5回	22	22	月	22	木	22	22	22	金	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
23	火	23	木6回	23	23	火	23	土	23	23	23	日	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23
24	水	24	金6回	24	24	水	24	日	24	24	24	月	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
25	木	25	土	25	25	木	25	月	25	25	25	火	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25
26	金	26	日	26	26	金	26	火	26	26	26	水	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26
27	土	27	月7回	27	27	土	27	水	27	27	27	木	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27
28	日	28	火7回	28	28	日	28	木	28	28	28	金	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28
29	月	29	水6回	29	29	月	29	土	29	29	29	日	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29
30	火	30	木7回	30	30	火	30	月	30	30	30	火	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
31	水	31	金7回	31	31	水	31	火	31	31	31	木	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31

※年間講義回数
月 30回
火 31回
水 32回
木 32回
金 32回

※3月～6月
他学科後期試験
※国家試験特別講座
就職活動(1)
春期休暇中は私の
予定を入れない
→日程は別途

※就職指導に関する
登校日は、公欠に
ならないよう調整を
→チャンスがその日
しかない場合は、
担任にご相談

※進級・卒業条件の
再確認
→ 達成の計画を

※就職活動準備(1)
スーツ、頭髮
※26(土), 27(日) 登校

※国家試験直前講座
期間中の土曜登校

※ITパスポート
21(日)までに全員
合格
※25(木)～30(火)
他学科前期試験
※夏期特別講座(1)

※28(金)
2)併願サポート最終

※午前免除直前講座
(1)

情報処理科2学年

本校の教育方針	1	
評価について／出欠席ルール	3	
FJBネットID登録とメールアドレス	4	
実習室・インターネット使用上のルール・マナー	4	
個人情報保護に関する基本方針	5	
2019年度教育目標と検定スケジュール	6	
Java言語演習応用	飯田 剛大	7
卒業研究	1組:飯田 剛大、2組:田邊 悦子	8
UML基礎	田邊 悦子	9
Web技術演習応用	小林 信彦	10
C#演習	須藤 健一郎	11
プレゼンテーション	1組:須藤 健一郎、2組:矢野 孝裕	12
Oracle演習 I・II	小原 和明	13
就職講座A応用	江川 加津雄	15
ビジネス文書	高橋 豊	16
マーケティング概論	矢野 孝裕	17
COBOL演習	1組:小林 信彦、2組:正木 義男	18
Linuxサーバー構築 I・II	小林 信彦	19
Office演習応用 I・II	平山 慶子	21
検定対策応用	飯田 剛大	23
ビジネス会計	田邊 悦子	24
ゲーム制作 I・II	松木 栄一・山口 弘展	25
技術英語	正木 義男	27
応用ネットワーク	正木 義男	28
やってみなはれ演習応用 I・II	1組:飯田 剛大、2組:田邊 悦子	29

本校の教育方針

船橋情報ビジネス専門学校
校長 鳥居高之

教育理念「若者をハッピーに」

これが本校の教育理念です。しかし幸せの形は人によって違いますし、卒業式で「はいどうぞ」と手渡しできるものではありません。在学中だけハッピーならよい訳でもありません。その後こそ重要です。従って私たち教職員の使命とは、学生のみなさんが職業人・社会人として豊かな人生を送るために、その土台作りのお手伝いをするという事になります。あくまでも主役は学生本人です。また社会に出てハッピーになる最低条件としては、大人として自立していなければなりません。その自立に欠かせないのが自律です。自律とは自分と闘うということです。ただ欲望や本能のままに行動するなら動物と同じです。すなわち、「自律 → 自立 → ハッピー」という順番です。私達もみなさんのお手伝いに全力を尽くしますが、自立した大人になる独力を忘れないでください。

勉強は教わるものではない

初年度のみ先生方は手取り足取り親切に教えてくれます。高校までに自分なりの勉強方法が身に付いていない人もいます。しかし2年目からは最後まで教えません。「まずは自分で考えてみなさい」と指導します。なぜでしょうか。将来みなさんが就職する会社に、そんな面倒見のよい上司や先輩がいるでしょうか。みな仕事を抱えています。社会に出れば自分で勉強するのが当たり前です。質問・相談もできますが、自分で調べて考えるのが大原則です。その姿勢を在学中に身に付けてください。2年生になって先生の態度が変わるのはそのためです。急に厳しくなったと勘違いする学生がいますが、みなさんの真の成長を望んでいるのだということに気付いて欲しいです。

またスピード制限もしていません。もし授業の内容を既に理解していると感じる人は申し出てください。指導教員がそう判断すれば別メニューを設定します。クラス全体に歩調を合わせる必要はありません。どんどん前に進んでください！

人間教育の重視

人と接するのが苦手だからコンピュータの仕事に就きたいという学生がいます。大きな勘違いです。コンピュータの向こうには生身の人間がいます。どんなビジネスでも主役は人です。技術や資格ではなく人が仕事をするのです。そして人は一人では生きて行けない生き物です。仕事にせよ日常生活にせよ、常に他者との係わりの中で生きています。本校は単なる就職予備校ではないのです。人間教育を技術教育以上に重視しています。特に次の2つを心がけて欲しいです。

元気に明るく挨拶（あいさつ）

明るい人はみんなに好かれます。明るさの第一歩は、自分から元気に挨拶することです。そのような新入社員は職場でも愛されます。学校の先生方や来校されるお客様に練習台になっていただき、どんどん自分から挨拶しましょう。

3つの守り

本校がとても大切にしている3つの守りとは、「時間を守る、約束を守る、ルールを守る」です。単純ですが、当たり前のことを当たり前にやるのは実は大変なことです。自律できない人は自分と闘えません。つまり自立もできません。

「ルールを守る」に関しては考えて欲しいことがあります。学校生活だけでなく今後の生き方にも係わることです。ルールや法律を守るのは、叱られない罰せられないためでしょうか。世の中を見渡すと、法に触れなければいい、見つからなければいい、と考える者もいます。真の大人になり損ねた、自己中心のニセ大人です。みなさんには、「そんなことをしたら人として、大人として恥ずかしい」と自分を律して行動できる、良識ある職業人・社会人になって欲しいと願っています。以下校内のルールやマナーについて、少し補足しておきます。

通学

- (1) バイク・自動車通学全面禁止。
- (2) 自転車は学生課に登録し所定の駐輪場所を利用。

エレベーター

- (1) 学生はドアの注意書きに従うこと。下りは全面禁止。
- (2) 授業開始前および終了後の5分間は使用禁止。(教員優先)
- (3) 3号館は全面使用禁止。

禁煙

教職員、学生、成年、未成年者にかかわらず校内及び天沼公園・学校周辺は全面禁煙。

※船橋駅前から本校までの路上喫煙は条例により禁止され罰金の対象です

交通ルール

3号館前の大通りは横断絶対禁止。過去に死亡事故あり。横断歩道を使うこと。

重大なルール違反やマナー違反をした場合は、校長面接の上、停学や退学処分になることもありますので、学生の本分を守り勉学や学校生活に励んでください。なお本校では、学生が直接メールを校長宛に出すことができます。何か要望や相談があれば、いつでもメールしてください。 takatorii@chiba-fjb.ac.jp

以上

評価について

- (1) 評価とは成績証明書にA～Dで表現され記載される、その科目の最終的な成績のことを指す。
- (2) 評価は、合計点を用いて算出する。合計点とは、定期試験の素点に授業態度や出席状況、課題提出等の平常点を合計して算出したものである。

評価は以下の基準を用いる。(点または%)

A	80以上
B	50～79
C	40～49
D	39以下

- (3) 評価Dの者は、単位未修得者として処理される。
- (4) 評価Dの者には所定の手続きの後、再試験を実施する。ただし、再試験は特別の場合を除き、レポートに代替する。再試験に合格した場合その科目の評価はCとする。(特別な努力が認められたものは、B評価になることもある。)

出欠席ルール

- (1) 遅刻3回で欠課1回、欠課6回(1年生はSHR分の遅刻1回を含む)で1日の欠席とみなし、次の条件で換算する
- ・SHRの遅刻及び欠席で「遅刻1」※SHRは1年生のみ
 - ・授業開始15分までの入室で「遅刻1」
 - ・授業開始15～45分までの入室で「欠課1」
 - ・授業開始45～60分までの入室で「欠課1+遅刻1」
- ※90分授業の前半45分の欠課1、後半15分までの遅刻1という考え方でカウントする
- ・授業開始60分以降の入室で「欠課2」
- (2) 年間55日の欠席で進級停止、退学勧告。
- (3) 交通機関の乱れによる遅刻の場合は「遅延証明をもらう」。ただしバスは適用外。

レベル	欠席日数	学校側からのアクション	備考
1	無断欠席	担任が自宅へ電話する	
2	累積10日欠席	自宅へ警告書を郵送する	警告書の郵送は累積10日になった時点で行う。
3	累積25日欠席	校長面接を行う	警告書の郵送は累積25日になった時点で行う。
4	累積40日欠席	校長面接において「退学警告」を行う	保護者同伴で行う。
5	累積50日欠席	校長面接において「最終警告」を行う	同上
6	累積55日欠席	①自宅へ退学勧告通知書を郵送する ②掲示板に名前を張り出す	退学を勧告する。

※「退学勧告」とは・・・1ヶ月以内に退学届けを提出すれば「自主退学」扱いとなります。以後は「強制退学処分」とします。

FJBネットID登録とメールアドレス

1. ユーザID登録について

本校では、学生1人ひとりにユーザIDを発行しております。このIDでログインすると、学校内のネットワーク環境が利用できます。課題の保存、教材の受け渡し、メールでのコミュニケーションなどに活用して下さい。

2. メールアドレスについて

- (1) 科によってメールアドレスが設定されています。
詳細は担任から説明があります。
- (2) 「FJBインターネット&イントラネット」画面の「電子メール」「先生へのメール」をクリックして電子メールを活用して下さい。
- (3) Webメールでの各個人に与えられている容量は50MBまでです。整理せずに企業からの大切なメールを受取できないケースがありました。不要なメールはこまめに消去してください。

3. 緊急連絡網について

クラスの諸連絡、台風や大雪の休校連絡等で使用します。各自、常に最新の連絡先を更新するようにしてください。登録されたアドレスに連絡がつかない場合、自己責任となります。また、メール連絡の環境に無い場合は担任へ申し出てください。

実習室・インターネット使用上のルール・マナー

1. 実習室の放課後開放について

放課後、午後6時まで実習室を開放します。開放時間中に清掃（清掃時間を入り口に掲示）が入ります。その際は一度退出をお願いします。気持ちよく使えるよう、ご協力ください。

2. 実習室に、飲食物は持ち込んではいけません

パソコンは精密な電子機械です。水、粘着質の糖分、細かなゴミ、小さな金属物などを嫌います。実習室では、飲食行為も持ち込みも、厳禁です。

3. 本校のパソコンに、ゲーム（その他ソフト）をインストールしてはいけません

雑誌の付録のCD-ROMを持ち込んだり、インターネットでダウンロードしたりして、ゲームなどのソフトを本校のパソコンにインストールしてはいけません。

4. USBなどの記憶媒体は必ずウイルスチェックをするようにして下さい

記憶媒体を本校で使用する場合は、監督の先生に申し出てウイルスチェックをしてもらってください。その後、許可します。

5. 実習ファイルを保存するための領域をIドライブに用意してあります

必要なファイルのみ保存し、常に整理を心がけてください。ゲームファイル、過度な容量のファイルの保存を禁止します。（卒業研究等、必要な場合を除く）

6. インターネットを利用して、画像、音楽などを不正使用してはいけません

画像・音楽データなどはすべて、著作権があります。さらに、人物の写真には肖像権、アイドルの写真にはパブリシティ権があります。個人的な利用の範囲を超えて、使用してはいけません。HPやブログに貼り付けることはこれらの権利の侵害で、犯罪行為です。

7. インターネットに、非常識な書き込みをしてはいけません

インターネットの世界は、限られた若者のギャグやチャレの場ではありません。善意ある人達の、世界的に開かれた場です。匿名性を利用した破廉恥な書き込みは、卑怯者の行為です。一見匿名ですが、アクセス記録は残りますから、必ず追跡されます。

以上の約束が守れない場合は、指導の対象となります。

また、悪質な場合は、停学・退学を含めた処置を検討します。

学校法人三橋学園 船橋情報ビジネス専門学校
個人情報保護に関する基本方針（プライバシーポリシー）

船橋情報ビジネス専門学校

船橋情報ビジネス専門学校は、教育機関としての社会的責任を果たすために、以下の個人情報保護方針(プライバシーポリシー)を定め、教職員およびその他の関係者に周知徹底し、これを実行します。

1. 個人情報の取り扱いについては、教育上または業務上必要な範囲内において利用目的をできるだけ特定した上で、権限を与えられた者のみに許可します。
2. 個人情報に対する不正アクセス、紛失、破壊、改ざんおよび漏えい等を防止するために、適切な安全対策を講じます。
3. 取得した個人情報は、以下の目的に利用します。
 - (1) 本校の授業、検定試験、行事等の通知・連絡・管理を行うため
 - (2) 就職指導および就職活動支援を行うため
 - (3) 入学相談および募集活動を行うため
 - (4) 入学選考試験業務を行うため
 - (5) 各種証明書等の発行業務を行うため
 - (6) 上記のほか、教育上必要と判断される業務や活動を行うため
4. 本校は以下のような場合において、必要とされる範囲内で個人情報を関係者または第三者に提供もしくは公開することがあります。
 - (1) 在学生の保護者に対し、本人の学業成績、出欠席状況、資格取得状況等の提供
 - (2) 在学生もしくは卒業生の出身校に対し、本人の出欠席状況、資格取得状況、就職状況等の提供
 - (3) 学内での定期試験合格者、資格取得者、就職内定者情報等の公開
 - (4) 就職指導室における、在学生もしくは卒業生の就職先、就職活動記録等の公開
 - (5) 本校への入学希望者に対する、在学生もしくは卒業生の就職または就職内定先情報および、学校案内や本校ホームページに記載されている情報等の提供
 - (6) 上記のほか、本校の教育上もしくは業務上必要と判断される場合
5. 上記以外の利用目的で個人情報を収集する場合は、別途本人および保護者に通知します。
6. 以上のように、本校による関係者および第三者への個人情報の提供は、教育上もしくは業務上必要であると判断した上で行っておりますが、希望しない場合は所定の手続による請求をすることで停止できます。

個人情報の開示、訂正、利用停止の請求および取り扱いに対する問い合わせは下記までお願いします。

校長 鳥居 高之
047-425-1051
takatorii@chiba-fjb.ac.jp

2019年度 教育目標と検定スケジュール

2年生

情報処理科

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 経済産業省基本情報技術者試験、オラクルマスターの合格 システム構築に必要な技術の習得 (システム設計技法、プログラミング技術、データベース利用技術) 社会人として必要な能力の養成 (コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力) システム構築に必要な論理的思考能力の向上
目標資格	<ul style="list-style-type: none"> 経済産業省基本情報技術者試験 オラクル認定 Java プログラマ ブロンズ 文部科学省後援 情報検定 (J 検) 情報システム試験 システムエンジニア認定 文部科学省後援 情報検定 (J 検) 情報システム試験 プログラマ認定
進級条件	<ul style="list-style-type: none"> 基本情報午前免除 or 情報検定 (J 検) 活用 2 級 Java プログラミング課題 MOS Excel
卒業条件	<ul style="list-style-type: none"> 基本情報午前免除 or 情報検定 (J 検) 活用 2 級 サーティファイドJavaプログラマー能力認定試験 3 級 漢字検定 3 級 ビジネス能力検定 (B 検) ジョブパス 3 級

<方針>

- 1 年次：資格取得 (座学中心)
- 基本情報技術者試験合格を第一目標し、IT 基礎知識を身につける
 - アルゴリズムの授業に力を入れ、プログラミング力を高める
 - IT 業界やその職種について研究し、就職活動に向けての意識づけを行い、働くことについて考える
- 2 年次：実務能力養成 (コンピュータを使用した演習中心)
- 理論と演習を通じて、システムエンジニア・プログラマーの仕事を実験し、仕事に必要な意識や姿勢を考える
 - グループでのシステム開発を通じ、他人と共に働く力や自ら考え行動する力の向上を図る
 - 2 年間を通して：ビジネス教養習得
- 2 年次：企業に役立つ高度な人材及び良き社会人の養成を目指す
- 1 年次は B 検取得のための勉強を土台に基礎知識の定着を図り、2 年次は実践的にコミュニケーション能力を養う
 - プレゼンテーション能力、目的に応じたドキュメント作成の基礎を習得する
 - 限られた時間の使い方を考え、納期を意識した計画的な作業を実践できるようにする

1 学年

2 学年

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
1 基本情報技術者 午前免除試験	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
2 経済産業省 基本情報技術者試験	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
3 経済産業省 ITパスポート試験	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
4 オラクルマスター	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
5 J 検情報活用 2 級、1 級	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
6 J 検システム試験 (基本、プログラミング、システムサイ)	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
7 UMLモデリング 技能認定試験 L1	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
8 漢検 3 級	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
9 B 検ジョブパス 3 級	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
10 MOS Excel	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
11 オラクル認定Java (Bronze) サーティファイドJava 3 級	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→

科目	Java言語演習応用	分類	専門科目
担当	飯田 剛大		
テキスト (出版社)	スッキリわかるサーブレット&JSP入門 第2版(インプレス)		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	0%	35%	35%	0%	30%	100%		

1. 授業の概要

Java、オブジェクト指向、OracleDB、SQL、HTML、JSP、サーブレット 以上の技術について段階的に取り組む筆記の小テストやプログラミング課題を行い、知識を身に付けながらプログラムを作成する

2. 授業の目標(検定取得など)

IT業界の中で多く使われているWebアプリケーションを開発する知識と能力を身に付ける
後期の卒業研究でWebアプリケーションのシステムを開発するため、1人で実装、問題解析が出来る能力を身に付ける

3. 注意点・要望

テーマ毎に使用する技術は異なるが、最終的に全ての技術を連携させて後期の卒業研究を行うので、それぞれの技術の関連を意識すること

4. 関連科目

卒業研究

週	テーマ	内容
1	オブジェクト指向の復習	クラス、インスタンス、オブジェクト指向の復習
2	例外プログラム	例外の制御
3	DBアクセスプログラム	JavaとOracleDBの連携
4	コレクションクラスとDBアクセス	ArrayListの使い方とDB連携
5	JSP基礎(1)	Webアプリと動作環境について
6	JSP基礎(2)	入力フォームとイベント
7	JavaによるWebアプリ開発(1)	サーブレットと画面遷移
8	JavaによるWebアプリ開発(2)	サーブレットと画面遷移
9	JavaによるWebアプリ開発(3)	パラメータの引き渡しとセッション
10	JavaによるWebアプリ開発(4)	パラメータの引き渡しとセッション
11	JavaによるWebアプリ開発(5)	パラメータの引き渡しとセッション
12	JavaによるWebアプリ開発(6)	WebアプリとDB連携
13	JavaによるWebアプリ開発(7)	WebアプリとDB連携
14	JavaによるWebアプリ開発(8)	WebアプリとDB連携
15	JavaによるWebアプリ開発(9)	WebアプリとDB連携

備考

システム開発経験のある教員が、実務経験を生かしてプログラミングの講義を行う

科目	卒業研究	分類	専門科目
担当	1組:飯田 剛大・田邊 悦子、2組:田邊 悦子・飯田 剛大		
テキスト (出版社)			
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	8
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要

システムエンジニア・プログラマーの仕事に直結する実務的な演習として、グループ単位で「Webアプリケーションの開発」に取り組み、基本計画から設計、実装、テストまでの開発工程を実践する

2. 授業の目標(検定取得など)

①システム開発に必要な視点と姿勢の習得 ②JSP,ServletなどWebアプリの基礎の習得 ③設計書作成の観点の習得
④納期を意識した計画的な作業の実践 ⑤他人とともに働く力の向上 ⑥自ら考え行動する力の向上

3. 注意点・要望

クライアントとエンドユーザーの両方の視点を意識して開発に取り組むとともに、チーム内での役割分担やビジネスマナーも含め、「本校での総決算」として取り組むこと【設計書の提出期限は厳守！】

4. 関連科目

Java言語演習応用、Web技術演習応用、UML基礎、Oracle演習 I・II、プレゼンテーション

週	テーマ	内容
1	分析工程(1)	現状分析、コンセプトの振り返り 要求モデル(ユースケース図)
2	プログラム演習(1)	開発環境の設定(Tomcat, Eclipse) Webアプリケーションのひな形作成
3	分析工程(2)	見積書、開発スケジュール
4	プログラム演習(2)	Webアプリケーションのひな形作成
5	設計行程(1) システム開発(1)	UI設計(画面レイアウト) 画面の作成(HTML, CSS)
6	設計行程(2) システム開発(2)	UI設計(分析オブジェクト図) 画面の作成(HTML, CSS)
7	設計行程(3)	DB設計(データモデル、テーブル設計書、コード設計書)
8	プログラム演習(3)	Webアプリケーションのひな形作成、エラー処理
9	設計行程(4) システム開発(3)	設計モデル(画面遷移図) Servletの呼び出し、画面遷移、データベース操作
10	システム開発(4)	各グループのシステム開発を行う
11	設計行程(5)	設計モデル(ファイル一覧、共通変数定義書)
12	システム開発(5)	各グループのシステム開発を行う
13	設計行程(6)	シーケンス図、クラス図、メソッド仕様書、テスト仕様書
14	システム開発(6)	各グループのシステム開発を行う
15	システム開発(7)	各グループのシステム開発を行う
16	テスト工程	テスト作業(単体テスト、結合テスト、システムテスト他)
17	納品	成果物一式の提出

備考

システム開発経験のある教員が、その経験を生かして、システム開発に必要な視点、技術、姿勢を指導する

科目	UML基礎	分類	専門科目
担当	田邊 悦子		
テキスト (出版社)	【改訂版】UMLモデリング技能認定試験 入門レベル(L1)問題集 UML2.0対応(技術評論社)		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	40%	0%	40%	20%	100%		

1. 授業の概要

オブジェクト指向開発で用いられるUMLの代表的な図法の基礎を習得し、各図の書き方と特徴を理解する

2. 授業の目標(検定取得など)

- ①Word,Excelを使い、見やすい設計書を作成できるようになる ②時間の使い方、納期意識を身に付ける
③UMLモデリング技能検定試験(UMTP L1)に合格する

3. 注意点・要望

テーマごとに課題あり【設計書の提出期限は厳守！】

→ 放課後の作業が必要となるので、就職活動との両立を意識した「計画的な作業」を実践すること

4. 関連科目

卒業研究

週	テーマ	内容
1	企業人としての基本事項	企業の業務活動・組織構成・利益計算、オフィス環境、テクノストレス、バックアップ、ウィルスとワクチン、ネチケット、ワープロの書体、用紙サイズ
2	第1章 オブジェクト指向の基本概念	一般的なシステム開発の流れ、開発モデル、オブジェクト指向とは UMLの歴史、UMLのダイアグラム、モデリングとは
3	第2章 要求モデリングの前提知識	【ユースケース図】概要、目的、表記方法、練習問題、課題
4	第4～7章 振る舞いモデリングの前提知識(1)	【アクティビティ図】概要、目的、表記方法、練習問題
5	第4～7章 振る舞いモデリングの前提知識(2)	【アクティビティ図】練習問題、課題
6	第4～7章 振る舞いモデリングの前提知識(3)	【シーケンス図】概要、目的、表記方法、練習問題
7	第4～7章 振る舞いモデリングの前提知識(4)	【シーケンス図】練習問題、課題
8	第4～7章 振る舞いモデリングの前提知識(5)	【オブジェクト図】概要、目的、表記方法、練習問題
9	第4～7章 振る舞いモデリングの前提知識(6)	【オブジェクト図】練習問題、課題
10	第4～7章 振る舞いモデリングの前提知識(7)	【コミュニケーション図 / ステートマシン図】概要、目的、表記方法
11	第3章 構造モデリングの前提知識(1)	【クラス図】概要、目的、表記方法、練習問題、課題
12	第3章 構造モデリングの前提知識(2)	クラス図とシーケンス図の関係
13	第8,9章 実装モデリングの前提知識	【コンポーネント図 / 配置図】概要、目的、表記方法、課題
14	試験対策	模擬問題の実施
15	試験対策	模擬問題の実施

備考

システム開発経験のある教員が、その経験を生かして、設計の基礎となる図法を指導する

科目	Web技術演習応用	分類	専門科目
担当	小林 信彦		
テキスト (出版社)	HTML5 & CSS3 デザインレシピ集(技術評論社)		
参考資料	HTML5&CSS3標準デザイン講座(翔泳社)(1年次使用テキスト)		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	70%	0%	0%	30%	100%		

1. 授業の概要

システム開発に必要なweb技術、レイアウト、デザインについて演習を行う。

2. 授業の目標(検定取得など)

フォームや表の扱い、CSSレイアウトについて習熟する。

3. 注意点・要望

HTML/CSSの規格に厳格な書き方を心がけること

4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容と進め方、課題や評価について
2	HTML・CSS演習1	HTML・CSSの基礎の復習1
3	HTML・CSS演習2	HTML・CSSの基礎の復習2
4	HTML・CSS演習3	table関連要素とCSS1
5	HTML・CSS演習4	table関連要素とCSS2
6	HTML・CSS演習5	table関連要素とCSS3
7	HTML・CSS演習6	課題作成
8	HTML・CSS演習7	form関連要素とCSS1
9	HTML・CSS演習8	form関連要素とCSS2
10	HTML・CSS演習9	課題作成
11	HTML・CSS演習10	floatによるレイアウト作成1
12	HTML・CSS演習11	floatによるレイアウト作成2
13	HTML・CSS演習12	floatによるレイアウト作成3
14	HTML・CSS演習13	課題作成
15	前期総まとめ	前期に行ってきた項目の総まとめを行う

備考

科目	C# 演習	分類	専門科目
担当	須藤 健一郎		
テキスト (出版社)	3ステップでしっかり学ぶ C#入門 (技術評論社)		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	0%	40%	20%	0%	40%	100%		

1. 授業の概要

Windowsのデスクトップ上で起動する、アプリケーションソフトを開発する

2. 授業の目標(検定取得など)

Windowsアプリケーションの開発手順を学ぶことで、自作アプリケーションを気軽に作ることができる状態を目指す

3. 注意点・要望

課題の不明点はしっかりと確認し、分かる・できる状態を作ること

4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	ガイダンス Visual C#の概要	VisualStudioの使い方 Visual C#で学習する、起動→作成→実行→保存、各部の名称について
2	プログラム作成の基本(1)	基本的なプログラムのコーディング ウィンドウ、ボタン、ラベル、テキストボックス
3	プログラム作成の基本(2)	変数、式と計算式
4	プログラム作成の基本(3)	練習問題
5	条件分岐(1)	条件分岐の考え方(if、switch)
6	条件分岐(2)	練習問題
7	処理の繰り返し(1)	処理の繰り返しとは(for、while)
8	処理の繰り返し(2)	練習問題
9	配列を利用する(1)	変数と配列、配列の活用、ループと配列
10	配列を利用する(2)	練習問題
11	さまざまなコントロール(1)	コントロールの活用 リストボックスとコンボボックス
12	さまざまなコントロール(2)	練習問題
13	クラスを利用する(1)	クラスとオブジェクト、クラスの作成、クラスの継承
14	クラスを利用する(2)	練習問題
15	アプリケーション開発	簡易アプリケーションの開発

備考

科目	プレゼンテーション	分類	教養科目
担当	1組:須藤 健一郎、2組:矢野 孝裕		
テキスト (出版社)			
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要

各回でテーマを設定し、グループでPowerPointを用いたスライドの作成、配布資料の作成及びプレゼンテーションを行う

2. 授業の目標(検定取得など)

- (1)相手の心に訴えるプレゼンテーション手法を身に付ける
- (2)マーケティングの重要性、手法を理解する

3. 注意点・要望

- (1)担当教員と報告・連絡・相談を密にし、効率良く最善の作業進捗を執り行うこと
- (2)社会人として相応しいマナーや所作で常に行動し、納期厳守を徹底すること

4. 関連科目

マーケティング概論、卒業研究

週	テーマ	内容
1	ガイダンス	プレゼンテーションのスケジュール、到達目標などの説明と、前期マーケティングの授業の振り返りと今後の学習内容の確認を実施
2	プレゼンテーション(1)	企画:プレゼンテーションの種類、企画書、ストーリープランニング ビジュアル化:情報の分類、図解、プレゼンテーションツール
3	プレゼンテーション(2)	話し方:魅力あるプレゼンテーション、第一印象、聞きやすい話し方 リハーサル:シナリオの確認、全体確認、リラクゼーション
4	プレゼンテーション実習(1)	各自、企画書とプレゼンテーション用のスライド、資料、台本を準備する
5	プレゼンテーション実習(2)	各自、企画書とプレゼンテーション用のスライド、資料、台本を準備し、提出を行う
6	プレゼンテーションの評価と共有	各自の成果物を持ち寄り、共有する
7	プレゼンテーション実習(3)	第1回プレゼンテーションに向けて準備を実施 スライド作成、配布資料作成、原稿作成
8	プレゼンテーション実習(4)	スライド作成、配布資料作成、原稿作成、提出 リハーサルと振り返り
9	プレゼンテーション実習(5)	第1回プレゼンテーション実施 議事録提出と振り返り
10	プレゼンテーション実習(6)	第2回プレゼンテーションに向けて準備を実施 スライド作成、配布資料作成、原稿作成
11	プレゼンテーション実習(7)	スライド作成、配布資料作成、原稿作成
12	プレゼンテーション実習(8)	スライド作成、配布資料作成、原稿作成、提出 リハーサルと振り返り
13	プレゼンテーション実習(9)	第2回プレゼンテーション実施 議事録提出と振り返り
14	クラス予選準備(1)	スライド作成、配布資料作成、原稿作成
15	クラス予選準備(2)	スライド校正、配布資料校正、原稿校正、リハーサル
16	クラス予選準備(3)	スライド校正、配布資料校正、原稿校正、リハーサル
17	クラス予選	プレゼンテーション、振り返り、議事録作成 ※学科代表チーム決定

備考

システム開発経験ある教員が実際に取引先でのプレゼンテーション経験を踏まえて講義を展開する。

科目	Oracle演習 I	分類	専門科目
担当	小原 和明		
テキスト (出版社)	スッキリわかるSQL入門第2版 (インプレスジャパン)		
参考資料	プリント、データ教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	60%	10%	0%	30%	100%		

1. 授業の概要

リレーショナルデータベースの概念とOracleの操作について理解する

2. 授業の目標(検定取得など)

Oracleの学習を通して、SQL文を中心としたデータベース操作や卒業研究の理解につなげる

3. 注意点・要望

卒業研究やシステム開発に必要なデータベース(SQL)の知識習得を行う。動作確認しながら理解を深め、使いこなせるようにすること。

4. 関連科目

卒業研究

週	テーマ	内容
1	第10章 表作成とデータ挿入の基礎	Oracleデータベースについての概要と、利用目的、1年次の振り返り CREATE TABLE, DROP TABLE, INSERT文, COMMIT
2	第10章 各種制約を含む表作成	表にデータを格納し、表を完成させる為の構文を学ぶ PRIMARY KEY, FOREIGN KEY, NOT NULL, CHECK, UNIQUE
3	第10章 各種制約を含む表作成	表にデータを格納し、表を完成させる為の構文を学ぶ PRIMARY KEY, FOREIGN KEY, NOT NULL, CHECK, UNIQUE
4	第1-2章 SQL文の基礎	SELECT文、INSERT文、UPDATE文、DELETE文の基本構文
5	第3章 操作する行の絞り込み	SELECT句の基礎と、WHERE句による行の絞り込みと条件式 SELECT, WHERE, 比較演算子, 論理演算子
6	第3章 操作する行の絞り込み	WHERE句による行の絞り込みと条件式 SELECT, WHERE, 比較演算子, 論理演算子
7	第4章 検索結果の加工	重複行の対策、ソート、集合演算子 DISTINCT, ORDER BY, UNION, MINUS, INTERSECT
8	第4章 検索結果の加工	重複行の対策、ソート、集合演算子 DISTINCT, ORDER BY, UNION, MINUS, INTERSECT
9	第5章 式と関数	演算子と単一行関数 DUAL表, CASE式, 関数(数値、文字列、日付)
10	第5章 式と関数	演算子と単一行関数 DUAL表, CASE式, 関数(数値、文字列、日付)
11	第5章 式と関数	演算子と単一行関数 DUAL表, CASE式, 関数(数値、文字列、日付)
12	第6章 集計とグループ化	グループ化による集合関数の利用 GROUP BY, HAVING, 集合関数
13	第6章 集計とグループ化	グループ化による集合関数の利用 GROUP BY, HAVING, 集合関数
14	前期のまとめ	総まとめ、問題演習
15	前期のまとめ	総まとめ、問題演習

備考

システム開発経験のある教員が、その経験を生かして、システム開発に必要となるDB技術を講義する

科目	Oracle演習Ⅱ	分類	専門科目
担当	小原 和明		
テキスト (出版社)	スッキリわかるSQL入門第2版 (インプレスジャパン)		
参考資料	プリント、データ教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	60%	10%	0%	30%	100%		

1. 授業の概要

前期に続いて、リレーショナルデータベースの操作やOracleのアーキテクチャについて理解する

2. 授業の目標(検定取得など)

Oracleの学習を通して、SQL文を中心としたデータベース操作や卒業研究の理解につなげる
Oracle全般の理解を深め、オラクルマスター-Bronze(SQL)の知識習得を目指す

3. 注意点・要望

卒業研究やシステム開発関連科目に必要なデータベースの知識を反復練習を通して習得する
また、Oracleサーバの内部処理やサーバ構築方法を理解し、より効率的な処理を目指してほしい

4. 関連科目

卒業研究

週	テーマ	内容
1	前期の復習	前期の知識を確認するテストを実施
2	第7章 副問合せ	ただのSELECT句ではない、SELECT句のネスト SELECT 列名 FROM (SELECT 列名 ~)
3	第7章 副問合せ	ただのSELECT句ではない、SELECT句のネスト SELECT 列名 FROM (SELECT 列名 ~)
4	第7章 副問合せ	ただのSELECT句ではない、SELECT句のネスト SELECT 列名 FROM (SELECT 列名 ~)
5	第8章 テーブルの結合	リレーションと結合について学ぶ OUTER JOIN, LEFT, RIGHT, FULL, ON, INNER
6	第8章 テーブルの結合	リレーションと結合について学ぶ OUTER JOIN, LEFT, RIGHT, FULL, ON, INNER
7	SQLの応用	順序、シノニムなどのデータベースオブジェクトについて学ぶ
8	SQLの応用	順序、シノニムなどのデータベースオブジェクトについて学ぶ
9	SQLの応用	順序、シノニムなどのデータベースオブジェクトについて学ぶ
10	SQL総合演習	練習問題を中心にテーブル設計、データ投入、検索などの演習を行う
11	SQL総合演習	練習問題を中心にテーブル設計、データ投入、検索などの演習を行う
12	SQL総合演習	練習問題を中心にテーブル設計、データ投入、検索などの演習を行う
13	SQL総合演習	練習問題を中心にテーブル設計、データ投入、検索などの演習を行う
14	PL/SQL	PL/SQLの基礎 SELECT文に埋め込んで使える自作関数の作成
15	後期のまとめ	総まとめ、問題演習

備考

システム開発経験のある教員が、その経験を生かして、システム開発に必要なDB技術を講義する

科目	就職講座A応用	分類	教養科目
担当	江川 加津雄		
テキスト (出版社)	求められる人材になるための社会人基礎力講座(日経BP社)		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	80%	0%	0%	0%	0%	20%	100%		

1. 授業の概要

社会人として必要な12の基礎力について、ケーススタディとグループディスカッションを通して理解する。

2. 授業の目標(検定取得など)

12の社会人基礎力について自己評価し、これからどのようにして身に付けていくべきかを考える。

3. 注意点・要望

4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	社会人基礎力1	人生設計とキャリアデザイン
2	社会人基礎力2	社会人になるということ、社会人基礎力とは
3	社会人基礎力3	前に踏み出す力1 主体性
4	社会人基礎力4	前に踏み出す力2 働きかけ力
5	社会人基礎力5	前に踏み出す力3 実行力
6	社会人基礎力6	考え抜く力1 課題発見力
7	社会人基礎力7	考え抜く力2 計画力
8	社会人基礎力8	考え抜く力3 創造力
9	社会人基礎力9	チームで働く力1 発信力
10	社会人基礎力10	チームで働く力2 傾聴力
11	社会人基礎力11	チームで働く力3 柔軟性
12	社会人基礎力12	チームで働く力4 状況把握力
13	社会人基礎力13	チームで働く力5 規律性
14	社会人基礎力14	チームで働く力6 ストレスコントロール力
15	前期試験期間	効果測定

備考

16年の社会人経験と31年の就職指導経験のある職員(職業紹介責任者講習受講済)が、その経験に基づいて社会人基礎力について講義を行い、またいかんして身に付け、強化していくかについて指導する。

科目	ビジネス文書	分類	教養科目
担当	高橋 豊		
テキスト (出版社)	なし		
参考資料	プリント		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要

実務に役立つ文書作成の知識と技術の全般を学ぶ。また、文章を正しく理解したうえでビジネス文書を作成する。

2. 授業の目標(検定取得など)

文章の正しい理解と文書作成能力の向上を目指し、社会に通用するビジネス文書の作成を目標とする。

3. 注意点・要望

プリントを多く配布するので、きちんとファイリングすること。

4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	導入・概要	ビジネス文書の概要と授業の概要を行う。
2	ビジネス文書の役割とその種類	ビジネス文書が果たす役割に関して考察する。 ビジネス文書の種類とその特徴を理解する。
3	文章表現技能①	文章を書く上での基礎となる主語と述語の関係、 指示語や助詞などの用い方を学ぶ。
4	文章表現技能②	簡潔でわかりやすい文章を学び、正確で誤りのない文章を書けるようにする。
5	文章表現技能③	相手に失礼がない文章を、敬語表現を踏まえて学ぶ。
6	ビジネス文書の表記と表現①	ビジネス文書の慣用句とその形式を学ぶ。
7	ビジネス文書の表記と表現②	ビジネス文書の定型文を学ぶ。
8	メール文書	メールの文章の特徴とビジネス文書としてのメールの書き方を学ぶ。
9	社外文書①	社外文書を理解し、その書き方を学ぶ。
10	社外文書②	案内状、通知状の作成。
11	社外文書③	依頼状、照会状の作成。
12	社内文書①	社内文書を理解し、その書き方を学ぶ。
13	社内文書②	報告書、連絡書の作成。
14	社内文書③	届け出のための文書、グラフ入りの文書の作成。
15	儀礼文書①	儀礼文書を理解し、その書き方を学ぶ。
16	儀礼文書②	挨拶状、お見舞い状の作成。
17	郵便 文書の取り扱い	郵便の知識と文書の取り扱いについて学び、理解を深める。

備考

科目	マーケティング概論	分類	教養科目
担当	矢野 孝裕		
テキスト (出版社)			
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	20%	20%	10%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要

- (1) マーケティングとはどのようなものか、その必要性を押さえる
(2) 膨大なデータから顧客の志向を分析する手法を押さえる

2. 授業の目標(検定取得など)

- (1) マーケティングとはどのようなものかを理解し、卒業後、それぞれの進路先で活かすことを目指す
(2) 膨大なデータから顧客の志向を分析する手法について、演習を通して身に付ける

3. 注意点・要望

- (1) マーケティングがなぜ必要なのか常に自問し授業に臨むこと
(2) 分析作業や企画立案の作業を通して、やろう、やってみようという気持ちを抱くように努めること

4. 関連科目

卒業研究、プレゼンテーション

週	テーマ	内容
1	マーケティングと顧客満足(1)	マーケティングの必要性、マーケティングの4P、お客様とは
2	マーケティングと顧客満足(2)	製品、商品、サービス、流通チャネル、プロモーション戦略
3	マーケティングと会社の目的	財務知識を知る、決算書とは、損益計算書とは、損益計算書で経営成績を知る 貸借対照表とは、どちらが良い会社か、同業企業における比較をする
4	これからのマーケティング(1)	マーケティング手法の種類、エリアマーケティングの必要性、 エリアマーケティングの進め方、情報収集の方法
5	これからのマーケティング(2)	情報分析の方法(3C、SWOT、STP)、これからのマーケティング、 不況時のマーケティング
6	事例研究	消費財を取り扱う、実店舗のマーケティング戦略立案の事例をみる
7	実践演習(1)	消費財についてのマーケティング戦略立案を行う
8	実践演習(2)	サービス財についてのマーケティング戦略立案を行う
9	実践演習(3)	各グループで商品・サービスを決定し、マーケティング戦略立案を行う
10	実践演習(4)	各グループで商品・サービスを決定し、マーケティング戦略立案を行う
11	実践演習(5)	各グループで商品・サービスを決定し、マーケティング戦略立案を行う
12	実践演習(6)	各グループで商品・サービスを決定し、マーケティング戦略立案を行う
13	実践演習(7)	各グループで商品・サービスを決定し、マーケティング戦略立案を行う
14	実践演習(8)	各グループで商品・サービスを決定し、マーケティング戦略立案を行う
15	実践演習(9)	各グループで商品・サービスを決定し、マーケティング戦略立案を行う

備考

基幹系業務システム開発経験のある教員が実際に経験した事を踏まえて顧客データ分析手法や分析データの活用方法、それらを基にしたシステム企画立案までの布石となる講義を展開する

科目	COBOL演習	分類	専門科目
担当	1組:小林 信彦、2組:正木 義男		
テキスト (出版社)			
参考資料	プリントなど		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	20%	50%	0%	0%	30%	100%		

1. 授業の概要

既存システムで利用が多く残るCOBOL言語に触れ、そのプログラミング基礎を習得する。

2. 授業の目標(検定取得など)

1年次に学習した基本的なアルゴリズムをプログラムで実装できるようにする。

3. 注意点・要望

課題とレポートで評価を行う。積極的に取り組み、課題の提出漏れがないように注意すること。

4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	COBOL演習1	COBOLプログラムの基本
2	COBOL演習2	データの扱い
3	COBOL演習3	データの扱い
4	COBOL演習4	データ構造
5	COBOL演習5	データ構造
6	COBOL演習6	表の利用
7	COBOL演習7	表の利用
8	COBOL演習8	表の利用
9	COBOL演習9	ファイルの読み込み
10	COBOL演習10	ファイルの読み込み
11	COBOL演習11	ファイルの読み込み
12	COBOL演習12	ファイルの操作(データの並び替え)
13	COBOL演習13	ファイルの検索(最大値の検出)
14	COBOL演習14	ファイルの操作(欠番の検索)
15	COBOL演習15	総合問題
16	まとめ	後期授業の振り返り

備考

科目	Linuxサーバー構築 I	分類	専門科目
担当	小林 信彦		
テキスト (出版社)	できるPRO CentOS 7 サーバー (インプレスジャパン)		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	10%	50%	10%	0%	30%	100%		

1. 授業の概要

Linux(CentOS)によるサーバの構築を行う。インストール、基本操作、セキュリティや管理について演習を行う。

2. 授業の目標(検定取得など)

Linuxの基本操作・設定を身につける。

3. 注意点・要望

授業内で進捗状況の確認と小テストを行う。仮想環境のインストールの都合上、座席は出席番号順で固定とする。

4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容と進め方、課題の提出法などについて・Linuxの位置づけ
2	インストール	ディストリビューション、インストール作業
3	基本設定	CentOSの基本的な設定とターミナル操作
4	基本操作1	リモート接続
5	基本操作2	基本的なコマンドによる操作1
6	基本操作3	基本的なコマンドによる操作2
7	基本操作4	基本的なコマンドによる操作3
8	基本操作5	基本的なコマンドによる操作4
9	基本操作6	確認
10	システム管理とセキュリティ1	管理者とユーザー管理
11	システム管理とセキュリティ2	システム管理
12	システム管理とセキュリティ3	アクセス権限
13	システム管理とセキュリティ4	パケットフィルタリングとSELinux
14	システム管理とセキュリティ5	確認
15	まとめ	前期授業の振り返り

備考

科目	Linuxサーバー構築Ⅱ	分類	専門科目
担当	小林 信彦		
テキスト (出版社)	できるPRO CentOS 7 サーバー (インプレスジャパン)		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	10%	50%	10%	0%	30%	100%		

1. 授業の概要

基本の確認と各種サーバー構築・設定を行う。

2. 授業の目標(検定取得など)

基本の確認と各種サーバー構築・設定を行う。

3. 注意点・要望

授業内で進捗状況の確認と小テストを行う。仮想環境のインストールの都合上、座席は出席番号順で固定とする。

4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	前期の復習	前期の復習
2	前期の復習	確認
3	環境の構築1	サーバー用にCentOS環境の再構築を行う
4	環境の構築2	コマンド操作による基本的な設定作業1
5	環境の構築3	コマンド操作による基本的な設定作業2
6	サーバ機能の設定1	webサーバー・FTPサーバーの設定1
7	サーバ機能の設定2	webサーバー・FTPサーバーの設定2
8	サーバ機能の設定3	webサーバー・FTPサーバーの設定3
9	サーバ機能の設定4	アプリケーションサーバーの設定1
10	サーバ機能の設定5	アプリケーションサーバーの設定2
11	サーバ機能の設定6	ClamAVのインストール
12	サーバ機能の設定7	DNSサーバーの設定1
13	サーバ機能の設定8	DNSサーバーの設定2
14	サーバ機能の設定9	DNSサーバーの設定3
15	まとめ	後期授業の振り返り

備考

科目	Office演習応用 I	分類	専門科目
担当	平山 慶子		
テキスト (出版社)	Access2016入門(プリント教材)		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	45%	25%	0%	30%	100%		

1. 授業の概要

- ・Excel: 会社でよく使われる機能を中心に、基本機能を確認し、応用機能を学ぶ
- ・Access: 基本を学ぶ

2. 授業の目標(検定取得など)

- ・Excel: 機能を知っているだけでなく、ビジネスの現場で「使える」「使いこなせる」をめざす
- ・Access: 仕組みを理解する

3. 注意点・要望

毎回授業で説明した内容に対する問題を出すので、遅刻をしないように注意

4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	Excel	授業の年間予定、進め方 書式設定、計算式
2		グラフ
3		表の分析
4		ページ設定
5		論理関数
6		端数処理
7		日付処理
8		データ参照
9		確認テスト
10		条件付き書式
11	Access	テーブル
12		クエリ
13		レポート
14		確認テスト
15		フォーム

備考

科目	Office演習応用Ⅱ	分類	専門科目
担当	平山 慶子		
テキスト (出版社)	Excel2016VBA入門(プリント教材)		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	70%	0%	0%	30%	100%		

1. 授業の概要

- ・Word: ビジネス文書のルールを確認しながら、資料作成に必要な機能を学ぶ
- ・Excel VBA: マクロ機能の基本を学ぶ

2. 授業の目標(検定取得など)

- ・Word: ビジネス文書やマニュアルなどの作成ができるようになる
- ・Excel VBA: マクロを利用し、Excelの一步進んだ使い方を身につける

3. 注意点・要望

毎回授業で説明した内容に対する問題を出すので、遅刻をしないように注意

4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	Word	スクリーンショット
2		社内文書・社外文書
3		段落書式
4		長文作成時の機能
5	Excel VBA	セルの操作
6		Withステートメント
7		Offserプロパティ
8		罫線の設定
9		シート・ブックの操作、マクロの自動作成
10		ユーザーフォームの利用
11		変数、メッセージボックス
12		Ifステートメント
13		Select Caseステートメント
14		For Nextステートメント
15		総合問題
16	総まとめ	後期授業の振り返り

備考

科目	検定対策応用	分類	選択科目
担当	飯田 剛大		
テキスト (出版社)	オラクル認定資格教科書 Javaプログラマ Bronze SE 7/8(翔泳社) 徹底攻略 Java SE 8 Silver問題集[1Z0-808]対応(インプレス)		
参考資料	新わかりやすいJava入門編(秀和システム)		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	0%	10%	70%	20%	100%		

1. 授業の概要

Javaプログラマブロンズ/シルバーの取得を目指し、問題演習とプログラム実習を組み合わせる授業を行う
資格取得の勉強を通して、Javaのベースとなる技術とオブジェクト指向の知識を修得する

2. 授業の目標(検定取得など)

オラクル認定資格のJavaプログラマブロンズ/シルバーの合格

3. 注意点・要望

合格には問題集を解くことが重要だが、併せて問題文にあるプログラムを実際にプログラミングすることが重要である
用語の言葉だけではなく、プログラミングの経験も通して知識を身に付けて欲しい

4. 関連科目

Java言語演習応用

週	テーマ	内容
1	Java言語プログラムの流れ	Br: Javaの特徴、コンパイル、ソースファイル、クラスファイル Si: Javaのパッケージ、インポート
2	データの宣言と使用	Br: 変数とデータ型、配列 Si: データ型の操作
3	演算子と分岐文	Br: 演算子、if文、if-else文 Si: 演算子と判定構造
4	繰り返し文と繰り返し制御文	Br: while文、for文、拡張for文 Si: 配列、ループ構造
5	クラス定義とオブジェクトの生成・使用	Br: クラスとコンストラクタ、オーバーロード Si: メソッドとカプセル化
6	クラス定義とオブジェクトの生成・使用	Br: static、アクセス修飾子 Si: メソッドとカプセル化
7	継承	Br: 継承 Si: 継承
8	継承	Br: オーバーライド Si: オーバーライド
9	継承	Br: this、super Si: this、super
10	ポリモフィズム	Br: 抽象クラス Si: 抽象クラス
11	ポリモフィズム	Br: インタフェース Si: インタフェース
12	ポリモフィズム	Br: 参照型の型変換 Si: 参照型の型変換
13	その他	Br: パッケージ、インポート Si: 例外、StringBuilder、ArrayList
14	模擬試験1	模擬試験1
15	模擬試験2	模擬試験2

備考

システム開発経験のある教員が、実務経験を生かして受験対策の講義を行う

科目	ビジネス会計	分類	選択科目
担当	田邊 悦子		
テキスト (出版社)			
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	40%	30%	0%	30%	100%		

1. 授業の概要

財務諸表(決算書)が表すもの、企業の経営成績や財務状態を読み取るための基礎を身に付ける

2. 授業の目標(検定取得など)

企業の数字をつかみ、数字でものを考えることができるようにする

3. 注意点・要望

授業に欠席した際のフォローを自主的に行う(授業内容の確認とプリントの受け取りは、基本翌日に行う)

4. 関連科目

やってみはなれ演習Ⅱ

週	テーマ	内容
1	企業と信用	企業の目的、ステークホルダー、モノとお金の流れ、大企業とは？、決算書
2	損益計算書(1)	5つの利益、利益の分析
3	損益計算書(2)	問題演習: 損益計算書の分析
4	貸借対照表(1)	3つ部、上下左右のバランス
5	貸借対照表(2)	問題演習: 貸借対照表の分析
6	損益計算書と貸借対照表(1)	経営活動の流れ、資産の活用と儲け、自己資本の活用と儲け
7	損益計算書と貸借対照表(2)	問題演習: 収益性の分析
8	損益分岐点(1)	固定費と変動費、損益分岐点の計算方法
9	損益分岐点(2)	問題演習: 損益分岐点を下げるには
10	損益分岐点(3)	学園祭の計画と振り返り
11	キャッシュフロー計算書(1)	3つのCF、現金の流れと倒産
12	キャッシュフロー計算書(2)	問題演習: キャッシュフロー計算書の分析
13	企業状態の分析(1)	公開されている決算書から、実在企業の分析をする
14	企業状態の分析(2)	公開されている決算書から、実在企業の分析をする
15	企業状態の分析(3)	各自の分析結果の発表
16	振り返り(1)	総合問題演習
17	振り返り(2)	総合問題演習

備考

部門での事務業務経験のある教員が、その経験を生かして、企業の数字が表す意味を講義する

科目	ゲーム制作 I	分類	選択科目
担当	松木 栄一・山口 弘展		
テキスト (出版社)	なし		
参考資料	Web等		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	0%	60%	0%	0%	40%	100%		

1. 授業の概要

コンピューターゲームの制作に関する講義と演習

2. 授業の目標(検定取得など)

ゲーム制作を題材にデータ構造やアルゴリズムへの理解を深めるとともに、各種メディアデータを扱う知識と技術を身につける

3. 注意点・要望

4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	導入	授業解説、環境構築等
2	コンピューターゲーム概論	コンピューターゲームとは、その歴史と分類、背景技術
3	ゲームプログラミング	初歩的なゲーム制作に関わる要素技術
4	CG基礎	コンピューターグラフィックスの基礎知識
5	CG作成・加工演習	グラフィックスソフトを用いた画像作成・加工演習
6	サンプルゲーム制作(1)	サンプルゲーム制作演習
7	サンプルゲーム解説(1)	作成したサンプルの解説
8	サンプルゲーム改良(1)	サンプルを各自で発展させる演習
9	音声基礎	ゲームに於ける音声の扱いについて
10	サンプルゲーム制作(2)	サンプルゲーム制作演習
11	サンプルゲーム解説(2)	作成したサンプルの解説
12	サンプルゲーム改良(2)	サンプルを各自で発展させる演習
13	サンプルゲーム制作(3)	サンプルゲーム制作演習
14	サンプルゲーム解説(3)	作成したサンプルの解説
15	サンプルゲーム改良(3)	サンプルを各自で発展させる演習

備考

科目	ゲーム制作Ⅱ	分類	選択科目
担当	松木 栄一・山口 弘展		
テキスト (出版社)	必要に応じ適宜		
参考資料	Web等		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	0%	60%	0%	0%	40%	100%		

1. 授業の概要

コンピューターゲームの制作

2. 授業の目標(検定取得など)

ゲームの制作を通して知識と技術の向上を図るとともに、自ら設計・計画し成果物を得るまでの過程を経験する

3. 注意点・要望

4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	導入と計画立案	授業解説、制作課題の構想と計画
2	概要設計	ゲームの概要と外部的仕様から設計に入る
3	詳細設計	内部的仕様を考慮しつつ詳細を詰め、外部設計を調整し具体的な設計を行う
4	初期プレゼンテーション	課題とする制作物の概要を発表、意見・要望の募集
5	計画	具体的なスケジュールリングと制作準備・環境構築
6	制作演習	制作作業
7	制作演習	制作作業
8	制作演習・計画調整	進捗確認と調整、制作作業
9	制作演習	制作作業
10	制作演習	制作作業
11	制作演習・計画調整	進捗確認と調整、制作作業
12	制作演習	制作作業
13	制作演習	制作作業
14	最終調整と発表準備	資料整理と成果物の最終調整、最終発表の準備
15	最終調整と発表準備	資料整理と成果物の最終調整、最終発表の準備
16	最終プレゼンテーション	成果の発表
17	総括	レビューとまとめ、成果物の整理・提出

備考

科目	技術英語	分類	選択科目
担当	正木 義男		
テキスト (出版社)			
参考資料	授業向けWebアプリを使用して説明・演習・テストを行う。ヘッドセットを使用する。		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	0%	70%	0%	30%	100%		

1. 授業の概要

英語を聴く・話す(発音する)・読む・書くの能力をバランスよく伸ばす。インターネットのフリーな英語教材を積極的に活用する。

2. 授業の目標(検定取得など)

英検準2級程度の英語力を身に付ける。

3. 注意点・要望

授業の理解度をもとに授業内容のレベルの変更することもある。

4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	授業内容と進め方・評価の説明	Webアプリの操作と機能の説明
2	演習とテスト	発音／語彙／音読／文法／Weblioによる語彙強化
3	演習とテスト	発音／語彙／音読／文法／Weblioによる語彙強化
4	演習とテスト	発音／語彙／Topics／洋楽／Weblioによる語彙強化
5	演習とテスト	発音／語彙／音読／文法／Weblioによる語彙強化
6	演習とテスト	発音／語彙／音読／文法／Weblioによる語彙強化
7	演習とテスト	発音／語彙／Topics／洋楽／Weblioによる語彙強化
8	演習とテスト	発音／語彙／音読／文法／Weblioによる語彙強化
9	演習とテスト	発音／語彙／音読／文法／Weblioによる語彙強化
10	演習とテスト	発音／語彙／Topics／洋楽／Weblioによる語彙強化
11	演習とテスト	発音／語彙／音読／文法／Weblioによる語彙強化
12	演習とテスト	発音／語彙／音読／文法／Weblioによる語彙強化
13	演習とテスト	発音／語彙／Topics／洋楽／Weblioによる語彙強化
14	演習とテスト	発音／語彙／音読／文法／Weblioによる語彙強化
15	演習とテスト	発音／語彙／音読／文法／Weblioによる語彙強化

備考 海外での業務経験をもとに授業を行う

情報処理科	2年
-------	----

【後期】

科目	応用ネットワーク	分類	選択科目
担当	正木 義男		
テキスト (出版社)			
参考資料	授業用Webアプリ、演習用プリント		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	30%	40%	0%	30%	100%		

1. 授業の概要
コンピュータとネットワークに関する講義とシミュレータ(Cisco社のPacket Tracer)を用いての演習
2. 授業の目標(検定取得など)
コンピュータとネットワークをシステムとして理解できる。IoT(Internet of Things)について演習を通して理解する。
3. 注意点・要望
授業での評価はWebアプリによるテストと課題の提出進捗で判断
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	授業内容の進め方と成績評価方法	成績評価用Webアプリの内容と操作方法
2	講義 / システム構築演習	コンピュータ(ハードウェア) / システム構築演習(有線LAN・Web)
3	講義 / システム構築演習	コンピュータ(ハードウェア) / システム構築演習(無線LAN・Web)
4	講義 / システム構築演習	コンピュータ(ハードウェア) / システム構築演習(DNS)
5	講義 / システム構築演習	コンピュータ(ソフトウェア) / システム構築演習(DHCP)
6	講義 / システム構築演習	コンピュータ(ソフトウェア) / システム構築演習(VLAN)
7	講義 / システム構築演習	コンピュータ(ソフトウェア) / システム構築演習(冗長構成)
8	講義 / システム構築演習	コンピュータ(ソフトウェア) / システム構築演習(冗長構成)
9	講義 / システム構築演習	ネットワーク(TCP/IP) / システム構築演習(L3スイッチ Static Routing)
10	講義 / システム構築演習	ネットワーク(プロトコル) / システム構築演習(Router Static Routing)
11	IoT演習 / システム構築演習	IoT演習 / システム構築課題(設計)
12	IoT演習 / システム構築演習	IoT演習 / システム構築課題(設計)
13	IoT演習 / システム構築演習	IoT演習 / システム構築課題(設計)
14	IoT演習 / システム構築演習	IoT演習 / システム構築課題(実装・検証)
15	IoT演習 / システム構築演習	IoT演習 / システム構築課題(実装・検証)
16	IoT演習 / システム構築演習	IoT演習 / システム構築課題(提出)
17	総まとめ	後期授業の振り返り

備考	ユーザサイドのインフラの構築・運用の業務経験をもとに授業を行う
----	---------------------------------

科目	やってみなはれ演習応用 I	分類	教養科目
担当	1組:飯田 剛大、2組:田邊 悦子		
テキスト (出版社)	社会人基礎力入門書 http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/syakajinkisoryokunyuumonfree.pdf		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要

経済産業省が提唱する社会人基礎力を、様々なグループワークや学校行事の運営により養う

2. 授業の目標(検定取得など)

グループワークの中で話し合い、発言、傾聴、考察を行い、リーダー・フォロワー、提案、許容、協調等の資質向上を目指す
グループでアプリ企画を考えITアプリアワードアイデア部門への応募を目指す

3. 注意点・要望

「モメている」=真剣な証拠、「失敗した」=チャレンジした証拠、
社会に出る前に真の協調性を学んでほしい

4. 関連科目

ビジネス関連科目全て、卒業研究

週	テーマ	内容
1	アプリ企画の応募(1)	アプリ企画の概要について
2	アプリ企画の応募(2)	グループでプレゼンテーションの準備を進める
3	アプリ企画の応募(3)	グループでプレゼンテーションの準備を進める
4	アプリ企画の応募(4)	グループでプレゼンテーションの準備を進める
5	アプリ企画の応募(5)	グループでプレゼンテーションのリハーサルを行う
6	アプリ企画の応募(6)	グループでプレゼンテーションのリハーサルを行う
7	アプリ企画の応募(7)	アプリ企画の発表を行う
8	アプリ企画の応募(8)	アプリ企画の発表を行う
9	アプリ企画の応募(9)	グループワークの振り返り、議事録の提出
10	卒業研究に向けて(1)	後期卒業研究の概要、目的と意義について
11	卒業研究に向けて(2)	卒業研究に向けてのグループワーク(市場分析とテーマの決定)
12	卒業研究に向けて(3)	卒業研究に向けてのグループワーク(市場分析とテーマの決定)
13	卒業研究に向けて(4)	卒業研究に向けてのグループワーク(市場分析とテーマの決定)
14	卒業研究に向けて(5)	卒業研究に向けてのグループワーク(市場分析とテーマの決定)
15	卒業研究に向けて(6)	卒業研究に向けてのグループワーク(市場分析とテーマの決定)

備考

社会人経験のある教員がグループワークを通じて社会人基礎力を向上する為の指導を行う

科目	やってみなはれ演習応用Ⅱ	分類	教養科目
担当	1組:飯田 剛大、2組:田邊 悦子		
テキスト (出版社)	社会人基礎力入門書 http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/syakajinkisoryokunyuumonfree.pdf		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要

経済産業省が提唱する社会人基礎力を、様々なグループワークや学校行事の運営により養う

2. 授業の目標(検定取得など)

グループワークの中で話し合い、発言、傾聴、考察を行い、リーダー・フォロワー、提案、許容、協調等の資質向上を目指す

3. 注意点・要望

「モメている」=真剣な証拠、「失敗した」=チャレンジした証拠、
社会に出る前に真の協調性を学んでほしい

4. 関連科目

ビジネス関連科目全て、卒業研究

週	テーマ	内容
1	学園祭に向けて(1)	企画の立案
2	学園祭に向けて(2)	企画の立案
3	学園祭に向けて(3)	予算案作成
4	学園祭に向けて(4)	予算案作成
5	学園祭に向けて(5)	グループごとに活動
6	学園祭に向けて(6)	グループごとに活動
7	学園祭に向けて(7)	グループごとに活動
8	学園祭に向けて(8)	評価と振り返り
9	グループワーク(1)	発信力をつけるには
10	グループワーク(2)	発信力をつけるには
11	グループワーク(3)	傾聴力をつけるには
12	グループワーク(4)	傾聴力をつけるには
13	グループワーク(5)	柔軟性をつけるには
14	グループワーク(6)	状況把握力をつけるには
15	グループワーク(7)	規律性をつけるには
16	グループワーク(8)	ストレスコントロールをつけるには
17	グループワーク(9)	ストレスコントロールをつけるには

備考

社会人経験のある教員がグループワークを通じて社会人基礎力を向上する為の指導を行う

